

# C ' S M A I L

VOL. 68

 **コスモ石油株式会社**

株主通信《シーズ・メール》SPRING 2011

**第105期 第3四半期 事業のご報告**

平成22年4月1日～平成22年12月31日



# 東北地方太平洋沖地震による 当社供給体制への影響と対応について



代表取締役社長  
木村 彌一

今般発生しました東北地方太平洋沖地震で被災された皆様には、心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。

また、地震による当社千葉製油所のLPGタンク付近火災（3月21日鎮火）により、近隣住民の方々をはじめ、関係する皆様に多大なご迷惑とご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

当社は現在、稼働中の3製油所での増産に加え、関東・東北地方のローリー出荷基地からの出荷を一部再開しており、被災地への石油製品の供給を最優先に対応するとともに、停止している千葉製油所、被災した出荷基地を早期に復旧すべく最大限努力しております。

関係各位の皆様にはご不便・ご迷惑をおかけしておりますが、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

# 千葉製油所のLPGタンク付近の火災に関連するご報告

## ■発生日時

2011年3月11日(金) 15時47分頃

## ■発生場所

当社千葉製油所(千葉県市原市) LPGタンク付近(負傷者6名)

## ■経緯

3月11日(金) 14時46分頃 地震発生  
15時00分 総合災害対策本部を設置  
15時47分頃 LPGタンク付近で火災を確認、全装置停止  
16時04分頃 LPGタンク消火活動開始  
以降、市原市消防局指示のもと、消火活動を実施  
3月21日(月) 10時10分 鎮火確認

※本発災はLPガスによる火災であることから、ガスの火を直接消すことで予測される二次災害を防止するためにガスを全て燃焼させる必要があり、鎮火に時間を要しました。

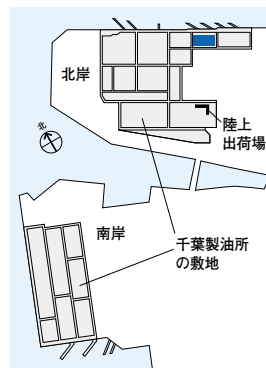
## ■今後の対応について

石油精製設備における火災はありませんでした。今後は、監督官庁のご指示のもと、設備の健全性の確認を行い、操業の再開と被災施設の復旧に向けてあらゆる努力をしております。

なお、千葉製油所の陸上出荷設備については健全性が確認され、3月24日より一部油種で在庫分の出荷を再開しました。

※最新の状況につきましては、都度当社ホームページにて更新し、お知らせしております。

■火災が発生した千葉製油所北岸のLPGタンク付近の位置(■色部分)



## 震災後の供給体制について

2011年3月25日現在、主に以下の対応を行っています。

- 四日市製油所と坂出製油所の原油処理能力を増強(＋8万バレル/日)いたしました。これにより、当社の原油処理能力は震災前の約8割にまで回復しております。
- 製品輸出をキャンセルして、国内への供給を増やすとともに、製品輸入の追加手当てを行いました。
- 経済産業省が発表した緊急対策への対応として以下の施策を行っています。
  - ① 稼働中の3製油所において石油製品を増産し、被災地に向けて優先的に出荷しています。
  - ② 安定供給重点サービスステーションを選定し、現地災害対策本部と連携を取りながら、被災地での安定供給に努めています。
  - ③ 稼働中の製油所から被災地用として、ドラム缶による灯油・軽油の出荷を行っています。

※最新の対応状況につきましては、都度当社ホームページにて更新し、お知らせしております。

ホームページアドレス <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

# 生命体のエネルギーとなる ALAを用いた事業を推進することで 社会の期待に応えていきます

生命の根源に関わる物質として、  
現在、天然アミノ酸ALA(アラ)への注目が高まっています。  
今回は、ALA-ヘム研究の第一人者である東京都市大学の近藤教授をお招きして  
その働きと可能性、そしてコスモ石油のALA事業について  
当社木村社長と意見交換をしていただきました。

## ALAとは？ コスモ石油のALA事業

**木村**▶ALA研究の第一人者である近藤先生から、ALAについて最初にご解説いただけますか。

**近藤**▶ALAの存在は、従来から知られていましたが、人工的に大量生産することが困難で、研究用試薬としてのみ使用されている貴重な物質でした。ALAは「5-アミノレブリン酸」と呼ばれるアミノ酸の一種で、36億年前の原始の地球に、生命とともに誕生したと考えられています。血液中の赤い色素ヘムや葉緑素(クロロフィル)の原材料

となる唯一のアミノ酸で、生命体の維持に必須の物質であり“生命の根源物質”です。

**木村**▶近藤先生がALAに興味を持たれたきっかけは何でしたか。

**近藤**▶生体の3原色に興味を持ったのがきっかけでした。例えば怪我などで内出血した場合、その部位の皮膚が赤から、青、黄色へと変化した後に、元の健康な色に戻りますが、そのメカニズムに興味を持ったのです。これは赤血球中のヘム(赤)が分解されてビリベルジン(青)に変化し、最終的にはビリルビン(黄)に還元されて治癒するた

めなのです。このヘムは、筋肉を動かすための生体内エネルギー物質の生産や、解毒のための代謝、神経情報の伝達、代謝の調節、脳の機能保持など、様々な生命の根源反応に関与しています。

ALAは、このヘムを合成する鍵となるアミノ酸なのです。植物では、葉緑素を生産する鍵となるアミノ酸となります。

**木村**▶世界的にもALAの研究は進んでいるのでしょうか？

**近藤**▶ALAに関する研究は、ドイツやアメリカなどにおいても行われていますが、日本が最も進んでいます。1960年代初頭



東京都市大学  
人間科学部教授 学部長

近藤 雅雄 氏 (左)  
Masao Kondo

コスモ石油株式会社  
代表取締役社長

木村 彌一 (右)  
Yaichi Kimura

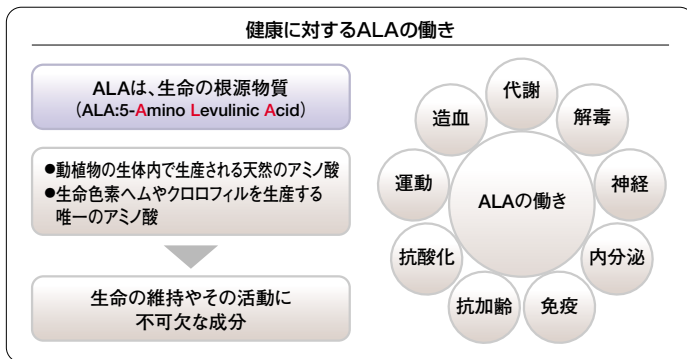
に、私の恩師らによって動物のミトコンドリアからALAを生産する酵素が発見され、それ以来ALAの生合成の研究が注目されるようになりました。さらに70年代後半から80年代には、ALA及びヘムの生合成に関わる研究や、難病である先天性ポルフィリン症（ヘムの生合成ができなくなる病気）、造血障害、肝障害、鉛中毒などの病気の発症機序\*の解明や診断法の開発など主に医学方面での先駆的な研究が行われました。ALA研究の歴史を振り返ってみても、石油会社がALAの研究を

※病気の発症メカニズム

行っているのは意外な気がするのですが、研究を始められたのは、どのような経緯があったのですか？

木村▶ 当社は1980年代後半に事業の多角化を進めるなかで、バイオテクノロジーの研究に力

を入れていました。当時もALAの存在そのものはバイオ分野の研究室のなかに試薬として常備されていて、それほど珍しいものではありませんでしたが、従来の化学合成法では、原料からALAを作り出すまでに多くの手



今後、健康長寿に向けた  
ALAの研究が進んでいくと  
考えられます。



●近藤雅雄氏プロフィール

東京都立大学理学部化学科卒業、厚生省技官、東京大学医学部・徳島大学医学部研究員、ロックフェラー大学客員研究員、国立公衆衛生院室長等を経て、東京都市大学人間科学部教授 学部長。薬学博士。主な著書に「コンパクト応用栄養学」（朝倉書店）など研究業績1,000件以上。

間とエネルギーを必要とし、また生産の効率も悪いため、製造コストが高いという問題がありました。その問題に対して、中央研究所のひとりの研究員が、「元々人の身体の中に存在する物質だから、他の生物を活用することで生成できないか」という方向からアプローチし、苦労の末に光合成細菌という微生物を用いた発酵法によって、安価で大量のALAを生産するプロセスの開発に成功したのです。

2000年には製造方法の特許を取得しました。ALAの製造コストが下がった結果、肥料や医療、ヘルスケア、化粧品など様々な分野にALAの供給が可能となりました。

**近藤**▶ALAは植物の生長も促進させますからね。植物は光合成、光のエネルギーを使って有機化合物を作ることによって成長しますが、ALAには光合成を活性化させる働きがあります。植物に適量のALAと微量金属を与えることで、生長が促進されるとともに、日当たりの悪さや寒さなど、環境ストレスへの耐性が向上する効果も発見されています。

コスモ石油におけるALA事業の展開状況はいかがですか？

**木村**▶様々な活用分野がありますが、当社は、まず肥料事業を立ち上げることにしました。日本国内の施設園芸の分野で実績のある(株)誠和と共同でコスモ誠和アグリカルチャ(株)を設立し、農業向け肥料の開発に取り組み、世界で初めてALAを配合した機能性液体肥料を開発しました。すでに日本をはじめ、オランダ、ドイツ、ギリシャなどヨーロッパ各国に販売網を拡大しています。現在は、世界有数の農業国である米国や中国での販売にも着手しています。

ALAと  
エイジング

**木村**▶ところで、先生は、加齢とALAの関係について研究を続けられていますね。

**近藤**▶ALAの不足が老化に関係することが、最近分かってきました。先程、赤血球中のヘムに生体内エネルギー物質を生産する機能があることを申し上げましたが、ヘムが足りなくなると、生体内エネルギーの生産量

が低下し、老化現象が加速されるというデータがあります。ALAは動植物の生体内で生産される天然アミノ酸ですが、人間の場合、その量は17歳をピークに減少していきます。また、実験動物を使った研究でも肝臓や骨髄においてALAを合成する酵素の活性が加齢によって低下することを確認しました。

コスモ石油では、美容や健康などのヘルスケア向けにALAを応用する取り組みも進められているようです。

**木村**▶化粧品については、当社とSBIホールディングス(株)のジョイントベンチャーであるSBIアラプロモ(株)が、ALAを利用した商品開発と販売を行っており、当社ではALAの原体を供給しています。

健康食品についても、SBIア

ラプロモ(株)が、ALAを含有するサプリメントを開発し、様々なチャネルを活用して、販売しています。

私自身も試作品の段階から2年間ほど飲んでいましたよ。

**近藤**▶私も化粧品やサプリメントを愛用させていただいていますが、それ以外の分野ではどのような製品を開発されていますか。

**木村**▶育毛剤の開発も行っています。業務用ヘア化粧品の専門メーカーである(株)ミルボンと育毛剤開発・製造のための共同事業契約を締結し、厚生労働省への医薬部外品申請に向けた臨床試験をスタートしています。また、医療分野では、SBIアラプロモ(株)が、脳腫瘍等、癌の術中診断・治療の臨床試験を開始しています。先生からご覧になって、ALAの

健康や農業への貢献に加え、自然エネルギーの利用にも力を入れていきます。



コスモ石油株式会社  
代表取締役社長  
木村 彌一

#### ALAを活用した事業展開

ヒト向用途

動物向用途

植物向用途

化粧品・健康食品  
医薬品

飼料・ペットフード

家庭用液体肥料

育毛剤

農業用液体肥料

## シーズ・メール対談

### Dialogue

今後の可能性については、どのよう  
に考えていらっしゃいますか？

#### ALAと アンチエイジング

近藤▶ 今後は健康長寿とQOL  
(生活の質) 向上の実現に向  
けた研究がさらに進んでいく  
と思われれます。日本人の平均  
寿命は、厚生労働省の2009年  
の統計によると女性が86.44  
歳、男性が79.59歳です。男  
性は女性に比べて6.85歳短命  
ですが、世界的に見ても同様の  
傾向が認められます。その理由



として、男女の染色体や基礎  
代謝量の違いに加えて、男性  
は免疫の中核である胸腺の萎  
縮が早いことがあげられます。  
実験動物を用いた研究による  
と、オスは加齢に伴い胸腺重  
量が直線的に著しく減少・萎  
縮していくのに対して、メス  
はゆっくりと萎縮していきま  
す。そこで老齢の動物にALA  
を1週間摂取させてみました。  
すると、オスの胸腺の萎縮が  
抑制され、逆に胸腺重量が増  
加したのです。その細胞を調  
べると、免疫細胞が増加して  
いたばかりでなく、長生きの  
遺伝子であるクロトー遺伝子  
や、活性酸素を分解するSOD  
遺伝子など、400種類以上  
もの遺伝子の発現が観察さ  
れました。ALAはアンチエイ  
ジング、抗酸化、運動機能の  
維持向上など、様々な健康機  
能の改善・維持・増進に応用  
が期待される物質といえます。



#### 新規事業として 太陽熱や風力の利用も推進

近藤▶ ALA以外には、どのよ  
うな新規事業に取り組んでい  
ますか。

木村▶ 当社は、第4次連結中期  
経営計画のもと、環境配慮型  
の事業展開と技術開発に取り  
組んでいます。

自然エネルギーを利用する技  
術として、アラブ首長国連邦  
のアブダビ政府系機関である  
MASDAR (アブダビ・フュー  
チャー・エナジー・カンパニ

### 用語解説

#### ※マズダール・シティ

アブダビ政府の資本によって運営される都市開発。先端エ  
ネルギー技術を駆使して二酸化炭素を排出しない都市づく  
りを推進しています。

#### ※ビームダウン型実証実験プラント

鏡などを用いて太陽光を集光し、その熱を利用して蒸気タ  
ービンを回転させ発電する技術。ビームダウン型とは、中  
央の反射鏡で太陽光を地面に据え置いた太陽炉に集める手  
法です。



一)と東京工業大学と共同で、集光太陽熱発電の研究を行っています。中東地域では、石油・天然ガスなどの天然資源は、輸出して収益を確保する一方で、内需には自然エネルギーの開発を進めています。2009年に、アブダビ酋長国のマスダール・シティ\*内に集光量約100キロワットのビームダウン型実証実験プラント\*が完成し、実証実験を行いました。高い集光性能が確認されましたが、今後の事業化に向けた課題抽出や、高性能・低価格化の検討を行うため、

実証実験の結果分析を行っているところです。

**近藤**▶国内での環境事業の取り組みはいかがですか。

**木村**▶2004年から山形県酒田市で風力発電事業を行ってきましたが、今後の風力発電事業への本格参入の足掛かりとして、風力発電事業者であるエコ・パワー(株)の株式を昨年取得しました。エコ・パワー(株)は、日本におけるこの領域のパイオニアとして、豊富な開発力・技術力を持ち、風況の良い東北・北海道に数多くの風力発電設備を所有してい

ます。

**近藤**▶石油という天然の資源を長年経営の柱とされ、新規事業としてALAという生命活動の根源物質や自然エネルギーの事業にも取り込まれるのは、素晴らしいことですね。今後益々の発展を期待します。

**木村**▶今回、先生からALAの機能や様々な効用については、貴重な話をお聞きしまして、ALAを活用した様々なビジネスの可能性を再確認することができました。ありがとうございました。

## ALA配合の製品ラインナップ

### ALA配合の液体肥料



家庭用液体肥料  
[ペンタガーデンPRO]

家庭用液体肥料  
[ペンタガーデンValue]

業務用液体肥料  
[ペンタキープSuper]

### 家庭用液体肥料

(お取扱店舗)

SS、東急ハンズやコーナン、島忠などのホームセンター、園芸店等(各々一部店舗を除く)でお取扱中です。詳しくはコスモ誠和アグリカルチャ(株)までお問い合わせください。

●コスモ誠和アグリカルチャ(株) TEL.03-3798-1225  
ホームページ●[http://www.pentakeep-world.com/pentagarden/index\\_shop.html](http://www.pentakeep-world.com/pentagarden/index_shop.html)

<インターネット販売>

●(有)タカ・グリーン・フィールズ TEL.044-922-9509  
ホームページ●<http://taka.shop-pro.jp/>  
●テイクオン(株) TEL.0120-190-114  
ホームページ●<http://takeon-ala.jp/>

### 業務用液体肥料

お問い合わせに関しては下記まで、お願いいたします。

●(株)誠和 TEL.03-5817-2361  
ホームページ●[http://www.seiwa-ltd.jp/penta\\_world/order.html](http://www.seiwa-ltd.jp/penta_world/order.html)

※ALA含有健康食品とALA配合化粧品に関するお問い合わせはSBIアラプロモ(株)までお願いいたします。

●SBIアラプロモ(株) TEL.03-6229-0095  
ホームページ●<http://www.sbi-alapromo.co.jp/>

# 坂出製油所の機能や 環境・安全対策などについて ご紹介します



執行役員 坂出製油所長  
生野隆士

東北地方太平洋沖地震にて  
亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに  
被災された方々へ、心よりお見舞い申し上げます。

## Q：坂出製油所の特長は

——西日本地区への製品供給をはじめ、輸出基地としての役割も果たしています。

坂出製油所は、四国を中心に中国・九州地方へ石油製品を安定供給するとともに、コスモ石油グループにおいてアジアに最も近い製油所として、アジア環太平洋地域に向けての輸出基地の役割も担っています。また直接脱硫装置を活用することによって、低コストの重質な原油から、付加価値の高いガソリンや軽油・灯油を製造するなど、高効率な操業

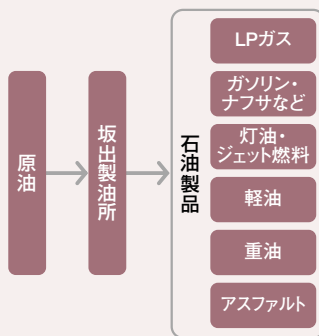
を行っています。さらに2010年には、環境負荷の少ないエネルギーであるLNG（液化天然ガス）の有効活用を促進するため、隣接する坂出LNG基地との連携強化を図りました。

## Q：環境保全の取り組みは

——瀬戸内海国立公園に隣接した製油所として、様々な環境配慮を行っています。

タンクの高さや色の統一による景観への配慮をはじめ、海洋汚染防止対策として、瀬戸内海側の地面を高くし、万が一の漏油に備えるなど、立地条件に応じた環境対策を行

## ■製油所における石油製品の製造



付加価値の高い製品を製造する直接脱硫装置

っています。

製油所から発生する廃棄物の中で、最も多いものが排水処理施設から発生する汚泥です。坂出製油所は、2001年に「余剰汚泥減容化装置」を国内の製油所で初めて導入し、汚泥の発生量を半減しました。大気汚染防止に関しても、石油製品をタンクローリー車に充填する際に発生するVOC（炭化水素ガス）回収装置を導入するなど、法規制の要求レベルを超える取り組みを実施しています。また、地球温暖化防止に向けて、高効率設備の導入やエネルギー使用量の「見える化」の推進など、積極的な省エネ活動に取り組んでいます。

#### Q：安全操業の取り組みは

—安全操業・安定供給の使命を再認識し、取り組みを強化しています。

オペレーターが運転中に気付いた種々の設備上の問題点を保全部門に提言する活動や、

運転部門と保全部門が一体となった安全啓蒙活動など、設備の不具合防止に向けた活動を展開しています。また、作業時の事故防止に向けたリスクマネジメントや階層別教育、ゼロ災運動などの取り組みも積極的に推進し、日々の安全操業・安定供給に努めていきたいと考えています。

なお、今回の東北地方太平洋沖地震に際しては、当社千葉製油所でのLPGタンク付近火災の発生を重く受け止め、私から改めて安全操業と安定供給の使命を再認識し、良い意味での緊張感を持って、これからの業務にあたるよう訴え、全社員と共有しました。

#### Q：被災地への供給体制は

—増産体制を整え、被災地に向けて優先的に出荷しています。

3月17日に経済産業省が発表した緊急対策への対応として、当製油所は原油処理能力



発生する汚泥を削減する余剰汚泥減容化装置



坂出LNG基地

を11万バレル／日から3万バレル増強しました。同じく四日市製油所では、12万5千バレル／日から5万バレル増強し、コスモ石油としては8万バレルの増強となります。被災地に向けて優先的に出荷しており、被災地のインフラ復旧に少しでもお役にたてればと願っております。

#### ■坂出製油所

香川県坂出市番の州緑町1-1

●操業開始年月 1972年10月

●面積 724,131㎡

(東京ドーム約15個分)

●原油処理能力 140,000バレル／日  
(1バレル=159リットル)

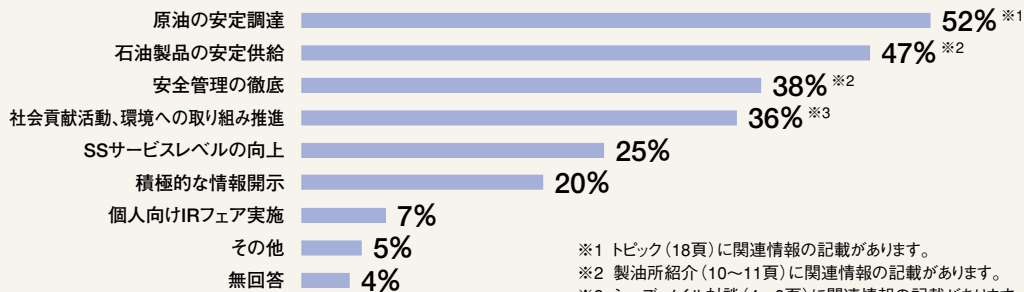
## 読者アンケート

Questionnaire Investigation

# コスモ石油について、関心をお寄せいただいている項目についてご説明します

シーズ・メール66号のアンケートに、約6,500通のご回答をいただき、ありがとうございました。  
皆様から関心をお寄せいただいている項目について、ご説明させていただきます。

### 読者アンケート「当社への要望」の集計結果 (複数回答)



※1 トピック(18頁)に関連情報の記載があります。

※2 製油所紹介(10~11頁)に関連情報の記載があります。

※3 シーズ・メール対談(4~9頁)に関連情報の記載があります。

### ▶ 新規事業の取り組み

**Q** 新規事業として取り組まれている風力発電について、教えてください。  
(40代 男性) — 他8名

**A** 131基の風力発電設備で、148,510キロワットの電力を供給しています。

当社は、環境事業を将来の収益の柱にすることを第4次連結中期経営計画の目標の1つに定め、風力発電の事業拡大や、集光太陽熱発電の事業化に取り組んでいます。風力発電については、2004年から事業を行ってきましたが、2010年3月にエコ・パワー(株)の株式を取得したことで、

本格的な事業参入を果たしました。同社は日本における風力発電事業のパイオニアであり、風況に優れた東北・北海道に数多くの風力発電設備を所有しています。2010年3月末現在、当社グループの風力発電設備は131基、総発電能力は148,510キロワットとなりました。これにより年間約15万トンのCO<sub>2</sub>排出量の削減にも貢献できる計算です。



青森県の風力発電設備「岩屋ウィンドパーク」

## ▶ 石油販売事業の取り組み

**Q** 電気自動車 (EV) の対応についてどのように取り組まれていますか。(30代女性) — 他7名

**A** EV用充電器を設置したSSの拡大など、インフラの整備に努めています。

走行中に排気ガスやCO<sub>2</sub>を排出しないEVは、地球温暖化防止や都市環境の改善に効果があるため、普及拡大に向けたインフラ整備が進められています。当社は、環境保全への貢献と、将来の事業拡大を視野に入れ、サービスステーション (以

下SS) へのEV用急速充電器の設置を進めています。2009年7月に神奈川県2カ所のSSに急速充電器を設置して以来、2011年2月現在、神奈川県5カ所、東京都1カ所、大阪府1カ所のSSでご利用いただけるようになりました。またEVをご利用のお客様ニーズを収集することで、新しいカーライフをサポートするサービスの開発にも努めています。



SSに設置したEV用急速充電器

※EV用急速充電器のご利用については、下記ホームページをご参照ください。  
<http://www.cosmo-oil.co.jp/ss/ev/index.html>

## ▶ 環境対応製品の取り組み

**Q** 環境にやさしい新燃料の取り組みについて教えてください。(50代女性) — 他6名

**A** バイオガソリンの製造体制を確立し、全国で販売を行っています。

植物由来のバイオガソリン (バイオエタノールと石油系ガスのイソブテンから合成されたバイオETBE\*を配合) は、環境にやさしいエネルギーとして、普及の拡大が図られています。原料となる植物が成長時に光合成によってCO<sub>2</sub>を吸収していることから、燃焼させても大気中の二酸化炭素の総量を増加させないためです。当社は、お客様と取り

組む環境負荷低減の一環として、バイオガソリンの製造・販売に向けた体制構築を進めてきました。2011年1月には、堺製油所に「ETBE装置」が完成し、日量約30万リットルの供給体制が整いました。この装置で生産されたバイオETBEを配合したバイオガソリンは、全国369 (2011年1月末現在) の当社サービスステーションで販売しています。



堺製油所に完成したETBE装置

※「エチル・ターシャリー・プチル・エーテル」の略称で、バイオエタノールと石油系ガスであるイソブテンを合成して製造される物質です。



代表取締役会長（左）  
岡部 敬一郎

代表取締役社長（右）  
木村 彌一

## 第105期(2011年3月期) 第3四半期連結累計期間 財務・業績のご報告

株主の皆様におかれましては平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社の第105期第3四半期連結累計期間（2010年4月1日～2010年12月31日）（以下「当第3四半期」）の財務・業績の概要について、ご報告いたします。

### 経営を取り巻く環境

当第3四半期における国内経済は、新興国の経済成長などを背景として、景気は持ち直しに向かいつつありますが、需要不足によるデフレ環境の継続など厳しい状況が続きました。

当社の事業環境については、新興国の需要増や投機資金の流入などにより原油価格は高止まりの状況が続き、受入原油コストは、2010年4

### ■ 連結業績サマリー

（単位：億円）

	2010年度第3四半期	前年同期比
連結売上高	19,958	1,952
連結営業利益	569	465
連結経常利益	513	399
在庫評価の影響	-38	-506
在庫評価の影響を除いた連結経常利益	551	905
連結四半期純利益	145	330

月～12月平均1バレル77.60ドルとなり、前年同期比12.32ドル上昇しました。為替は1ドル87.43円となり、前年同期比6.41円の円高で推移しました。当社の国内燃料油の販売数量は、電力用C重油の需要減などにより、前年同期比98.4%となりました。

## 連結業績・財務状況について

当社グループの業績について、事業セグメント別に解説します。石油事業については、原油価格が上昇するなかで、国内製品市況の回復が続いたことや夏場の猛暑による需要の高まりもあり、業績は堅調に推移しました。石油化学事業は、需給環境の悪化により厳しい収益状況となりました。石油開発事業は、原油価格が前年同期と比べ上昇したことで、堅調に推移しました。

これらの結果、当第3四半期の連結経営成績については、売上高1兆9,958億円（前年同期比1,952億円増収）、営業利益569億円（同465億円増益）、経常利益513億円（同399億円増益）、

また、特別損益及び法人税等を差し引いた四半期純利益は145億円（前年同期は四半期純損失185億円）となりました。

当第3四半期末における連結の財政状態につきましても、総資産は1兆6,026億円となり、前期末比424億円減少しております。これは、主に原油価格が上昇したことにより、たな卸資産などが増加する一方で、有利子負債の返済により現金及び預金が減少したこと等によるものです。

純資産は3,366億円、前期末比50億円の増加となり、自己資本比率は19.8%となりました。

## 通期の見通し

2010年度、通期の予想につきましては、2010年11月4日に公表しました業績予想に変更はありません。（2011年3月25日現在）売上高2兆6,000億円、営業利益740億円、経常利益660億円、当期純利益180億円となる見通しです。期末の配当は8円とさせていただきます。

株主の皆様には、一層のご理解・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

### 業績予想の適切な利用に関する説明

通期の予想につきましては、2010年11月4日に公表した業績予想に変更はありません。実際の業績は、今後の様々な要因によって予想と異なる場合があります。（2011年3月25日現在）

## ■ 2010年度通期の連結業績予想

《2010年11月4日公表》

●通期（2010年4月1日～2011年3月31日）（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	26,000	740	660	180

●受入原油価格、為替の前提

2010年度下期（2010年10月～2011年3月）前提

原油価格（ドバイ）＝80.00ドル/バレル 為替＝82.00円/ドル

# 要約四半期連結財務諸表

## Consolidated Financial Statements

### 要約四半期連結損益計算書

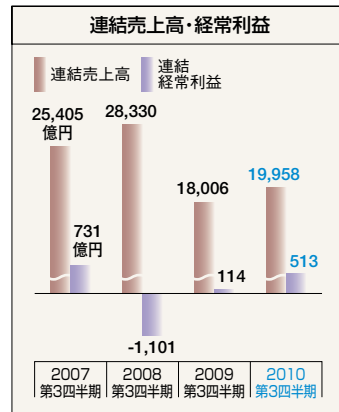
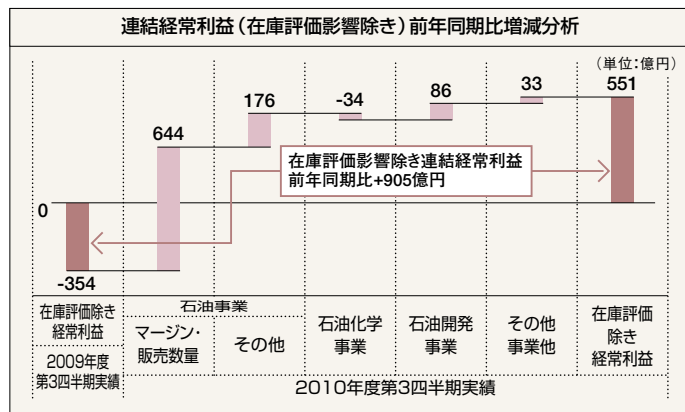
(単位:億円)

科目	当第3四半期 (2010.4.1~2010.12.31)	前第3四半期 (2009.4.1~2009.12.31)
売上高	19,958	18,006
売上原価	18,446	16,909
販売費及び一般管理費	943	993
営業利益	569	104
営業外収益	57	110
営業外費用	113	99
経常利益	513	114
特別利益	5	8
特別損失	96	76
税金等調整前四半期純利益	422	45
法人税等	246	214
少数株主損益調整前四半期純利益	176	—
少数株主利益	31	16
四半期純利益 (一は損失)	145	-185

※億円未満を四捨五入しています。

### 販売価格の上昇等により増収 マージンの改善等により増益

当第3四半期の連結売上高は、1兆9,958億円となり前年同期比1,952億円の増収、連結経常利益は513億円で前年同期比399億円の増益となりました。一方、在庫評価の影響マイナス38億円を除いた連結経常利益は551億円となり、前年同期比905億円の増益となりました。その主な内訳は、下記表の通り、マージンの改善等で644億円のプラス、合理化等その他で176億円のプラスとなる等、石油事業で820億円のプラス、石油化学事業はマージンの悪化等で34億円のマイナス、石油開発事業は原油価格の上昇等により86億円のプラス、その他事業他で33億円のプラスです。四半期純利益は145億円となりました。(前年同期は185億円の四半期純損失)





## 要約四半期連結貸借対照表

(単位:億円)

科 目	当第3四半期末 (2010.12.31)	前期末 (2010.3.31)
<b>資産の部</b>		
流動資産	7,925	8,453
固定資産	8,097	7,996
有形固定資産	6,094	5,977
無形固定資産	118	126
投資その他の資産	1,885	1,893
繰延資産	3	1
<b>資産合計</b>	<b>16,026</b>	<b>16,450</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	6,521	7,442
固定負債	6,138	5,693
<b>負債合計</b>	<b>12,659</b>	<b>13,135</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	3,031	2,962
評価・換算差額等	142	195
少数株主持分	193	158
<b>純資産合計</b>	<b>3,366</b>	<b>3,316</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>16,026</b>	<b>16,450</b>

※億円未満を四捨五入しています。

## 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科 目	当第3四半期 (2010.4.1~2010.12.31)	前第3四半期 (2008.4.1~2008.12.31)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2</b>	<b>-755</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>-577</b>	<b>-692</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>-760</b>	<b>814</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	-14	2
現金及び現金同等物の増減額	-1,349	-632
現金及び現金同等物の期首残高	2,289	1,599
現金及び現金同等物の四半期末残高	940	967

※億円未満を四捨五入しています。

### ●資産の部

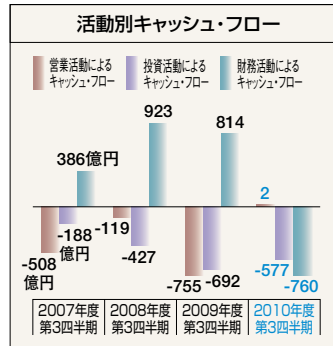
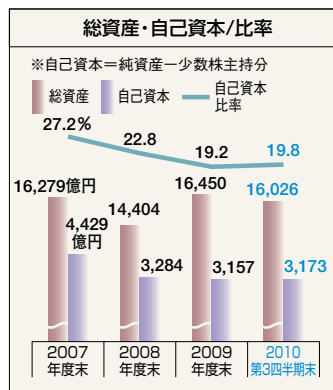
総資産は、有利子負債の返済により現金及び預金が減少したこと等により、前期末比424億円減少しております。

### ●負債の部

負債は、有利子負債が減少したこと等により、前期末比476億円減少しております。

### ●純資産の部

純資産は、前期末比50億円増加し、自己資本比率は19.8%となりました。



## アブダビ首長国との友好関係のもとに、 操業中の3油田の利権更新と新鉱区の追加取得に関する新協定を締結

当社グループのアブダビ石油(株)と、アブダビ首長国最高石油評議会(SPC)は、2月3日、アブダビで操業中の3油田の利権更新と、新鉱区の追加取得に関して新たに30年間の協定を締結しました。アブダビ石油(株)は1968年に創業し、1973年のムバラス油田を皮切りに、ウム・アル・アンバー油田、ニーワット・アル・ギャラン油田において原油の開発・生産を行ってきました。これら操業中の3油田は、利権更新後も引き続き30年間の生産継続を見込んでいます。また、新たに利権を獲得した新鉱区についても、操業中の3油田と同程度の生産規模が予想されています。この協定締結にあたっては、ゼロフレアリング\*をはじめとする

当社グループの環境技術・生産技術の高さや、長年に亘って実施してきた技術支援や文化交流を通じて、日本が同国にとって友好的かつ信頼できるパートナーであることが評価されたものと考えています。新鉱区の開発についても、当社グループの既存生産設備を活用することで、環境に配慮した経済性の高い開発・生産が期待されています。

※原油生産に伴って排出されるガスを高圧コンプレッサーで地下に戻すことで、従来は燃焼させていたガスから発生するCO<sub>2</sub>やNOx(窒素酸化物)を大幅に削減する技術です。地球温暖化防止や大気汚染防止に貢献するとともに、原油回収率の向上を図ることができます。

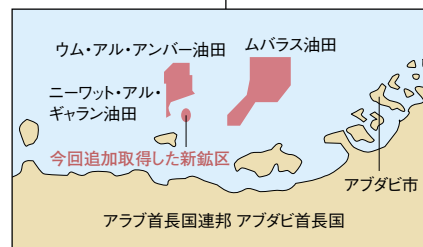
▶ [http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p\\_110203/index.html](http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_110203/index.html)



新たな利権協定の調印式



アブダビ石油  
鉱区位置図



アラブ首長国連邦 アブダビ首長国

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月  
期末配当金 3月31日  
支払株主確定日  
中間配当金 9月30日  
支払株主確定日  
1単元の株式の数 1,000株  
株主名簿管理人 中央三井信託銀行株式会社  
東京都港区芝三丁目33番1号  
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目  
8番4号  
電話照会先 中央三井信託銀行株式会社証券代行部  
電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)  
取次事務は中央三井信託銀行の全国  
各支店ならびに日本証券代行株式会  
社の本店及び全国各支店で行って  
おります。  
公告方法 電子公告の方法により行います。  
ただし、電子公告によることができな  
い事故、その他やむをえない事由が  
生じた場合は、日本経済新聞に掲載  
します。  
公告掲載URL  
[http://www.cosmo-oil.co.jp/  
ir/notice/index.html](http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/notice/index.html)  
上場取引所 東証一部・大証一部・名証一部

### 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設され  
ました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央  
三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

### 未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社  
にお申し出ください。

### Cover Story

カバーストーリー

#### ギリシャ

表紙のイラストは、当社グループのALA配合液体肥  
料の販売先であるギリシャをモチーフにしました。エ  
ーゲ海に浮かぶギリシャのサントリーニ島は、断崖絶  
壁の頂上にまるで雪が積もったように真っ白な家々が  
建ち並び風景が美しく、年間を通じて多くの観光客が  
訪れます。

表紙イラスト 古田 忠男

## コスモ石油株主通信『シーズ・メール』68号

発行/コスモ石油株式会社 コーポレートコミュニケーション部 IR室 〒105-8528東京都港区芝浦一丁目1番1号  
TEL.(03)3798-3180 FAX.(03)3798-3841  
ホームページ <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

誌名『C's MAIL(シーズ・メール)』には、「C(コスモ)の手紙」の意味を込めました。株主の皆様にも、心の通った情報を提供したいという当社の願いを、この名前に託しています。